

発達障害者支援者実地研修事業研修プログラム

＜強度行動障害コース＞

研修施設の想定 自閉症者の多く利用している入所施設

○環境の構造化、個々に合ったコミュニケーションの工夫等の技術を習得させる。

○地域移行にかかわる利用者への支援、関係者との情報共有等の技術を習得させる。

●基礎研修

研修ガイダンス： 当該施設における留意事項

講 義： アセスメント/モニタリング手法、支援手法、関係機関に対する
コンサルティング/コーチング手法等

●臨床実習

現 場 見 学： 施設内 日中を主とするが、夜間の対応の見学をさせる。

施設外 ・児童と成人の両方の支援現場の見学をさせる。

・医療機関、在宅サービス事業所等の地域移行に関わる
関係機関を見学させる。

現 場 支 援： 施設内 ・利用者のアセスメントやモニタリングを行わせる。

・日課や環境の構造化、個々の状態に合わせたコミュニケーション方法の工夫等を実施させる。

施設外 ・児童と成人の現場における支援の補助を行わせる。

・利用者の通院や家庭への帰省、地域移行後の生活につ
いての話し合い等の場に職員とともに参加し、発言さ
せる。

●事例検討

事例検討 当該施設の事例検討会に参加し、発言させる。

事例報告 児童例、成人例、地域移行の事例の計 3 例の個別支援
計画の作成と事例報告を行わせる。

発達障害者支援者実地研修事業研修プログラム

＜成人期支援コース＞

研修施設の想定 成人期に係る様々な相談等、例えばひきこもり等の成人期相談や生活支援を行っている相談支援事業所

○未診断の発達障害者に対する相談の技術を習得させる。

○ひきこもり、精神科疾患等を伴う発達障害者とその家族に対する支援技術を習得させる。

●基礎研修

研修ガイダンス： 当該施設における留意事項

講 義： アセスメント/モニタリング手法、支援手法、関係機関に対するコンサルティング/コーチング手法等

●臨床実習

現 場 見 学： 施設内 電話相談、面接相談、グループワークの場面を見学させる。

施設外 ・未診断の発達障害者が訪れる可能性のあるハローワーク、相談支援等の相談機関を見学させる。

・家庭や職場訪問、ケース会議場面を見学させる。

現 場 支 援： 施設内 ・相談者のアセスメント/モニタリングを行わせる。
・電話相談、面接相談、グループワークの補助を行わせる。

施設外 ・家庭や職場訪問、ケース会議の際に職員と共に行い、発言させる。

●事例検討

事例検討 当該施設の事例検討会に参加し、発言させる。

事例報告 未診断当事者支援例、診断当事者支援例、家族支援事例計 3 例の個別支援計画の作成と事例報告を行わせる。

発達障害者支援者実地研修事業研修プログラム

＜早期支援コース＞

研修施設の想定 早期の療育支援や家族への支援を行っている NPO 法人等

○早期発見（M-CHAT や PARS 等のアセスメント）と、家族への情報提供（家族の心的負担に配慮したうえで、子どもの客観的な状態、子どもに合った育児の方法を伝える）技術を習得させる。

○ペアレントメンター（家族の先輩）や保育士、療育等を行う病院や通園施設などの情報をまとめ、個別支援計画を提供する技術を習得させる。

●基礎研修

研修ガイダンス： 当該施設における留意事項

講 義： アセスメント/モニタリング手法、支援手法、関係機関に対するコンサルティング/コーチング手法等

●臨床実習

現 場 見 学： 施設内 児童のアセスメント/モニタリングを見学させる。
施設外 市町村の健診、健診後の教室、病院や診療所の診察や療育、児童養護施設、障害児通園施設、児童デイサービス、保育園や幼稚園、親の会等を見学させる。

現 場 支 援： 施設内 ・児童や家族に対するアセスメント/モニタリングを行わせる。
・家族面接を行う場に職員と共に参加し、子どもの状態や、子どもに合った育児の方法を説明させる。
・アセスメントと家族面接の様子、地域の資源を踏まえた個別支援計画を作成させる。
・療育技法を用いた子どもへの支援を補助させる。
施設外 ・関係機関への情報の説明や情報収集を行わせる。

●事例検討

事例検討 当該施設の事例検討会に参加し、発言させる。

事例報告 明確な障害があると判断できない例、家族が適切に対応できていない例、障害が明確で家族が積極的に支援を希望している場合、計 3 例の個別支援計画作成と事例報告を行わせる。